

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26019

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>【「聴く」姿勢の定着】 授業中、話者を見て最後まで話を聴こうとする意識が高まり、学級内の支持的風土が醸成されている。</p> <p>【学習への意欲】 「学校が楽しい」「勉強がおもしろい」という肯定的な回答が高水準を維持している。</p> <p>【ICT 活用の日常化】 端末を活用した学習計画や意見共有が定着しつつあり、学習に対する効力感も向上している。</p>
	<p>【粘り強さの不足】 「難しいことにもあきらめずに取り組む」という数値が低く、困難に直面した際にあきらめてしまう傾向がある。</p> <p>【主体的・計画的な学習】 「自分で計画を立てて学習する」が低調であり、自ら学びをデザインする力の育成が急務である。</p> <p>【意見表明の壁】 考えをもっていても進んで発表できない児童が一定数存在し、対話の必要感を創出する手立てが必要である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>【現状】 「友達と協力できる」と肯定的に捉える児童が多く、いじめの即日組織的対応体制も定着し、心理的安全性が確保されている。</p> <p>【課題】 人間関係が固定化・馴れ合いになる傾向がある。「全学年クラス替え」や新導入の「たてわり活動」を通じ、多様な他者のよさを認め合い、他者の言葉によって自己の価値を再発見する場面を意図的に創出する必要がある。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「困難な壁に立ち向かい、しなやかに乗り越える粘り強さと、自ら学びをデザインする主体性」

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>【AAR サイクルの定着】 イントロダクション（見通し）での「材」との出合わせ方を工夫し、児童が「学びのコントローラー」を握る授業を推進する。</p> <p>【「垂直」から「平行」への転換】 教師が教える関係から、子ども同士が高め合う「平行」な学びへと転換し、組織化された対話を構築する。</p>	<p>【「南の沢レポート」の活用】 各委員長と校長が直接対話し、児童の声を学校運営に反映させる。</p> <p>【「高学年が輝く水曜日」】 全教職員の手厚い伴走で委員会・クラブ活動を充実し、自己決定の場を保障して「自治の基盤づくり1年目」を推進する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを表明する前段階の「自らの立場の表明」ツールとして確実に活用し、考えの異同を可視化することで対話の必要感を創出する。 ・全校でデジタル習熟と「紙に書く学習」を融合させ、集中力を高める。 	

<本プログラムの実行に向けて>

